



印西市議会議員

# こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.30

発行/増田葉子 2022.11.5 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com  
ホームページもご覧いただけます http://www.masuda-yoko.com

市議会9月定例会の議案と、私の一般質問を要約してご報告します。

## 9月定例会の議案

### ①条例の一部改正 3件

男性職員も育児休業がとりやすいよう2回に分けての取得を可能にし、任用1年未満の非常勤職も一定条件で育児休業がとれるよう改正した「職員の育児休業条例」、そうふけふれあいの里(旧草深小跡)にある「高齢者就労支援センター」を旧永治小跡に移転させる設置管理条例など。

### ②補正予算 4件

- ・一般会計(4、5号の2件) / 「物価高騰対策で市民一人5千円給付」に6.4億円、道路の「消えた白線」解消に1億円、電気料金高騰、人口増により小中学校の水光熱費、給食費、教材費などに約2.6億円増額された。一方で、常勤職が14名減り、非常勤職が17名増え、人件費が1.5億円減額になっている。また、国の事業で、低所得世帯への5万円の緊急支援金3.7億円が計上された。
- ・特別会計 / コロナ感染の傷病手当金を増やす国保特別会計と、前年度繰越金を算入した介護保険特別会計の2件。

### ③契約の締結 5件

内野保育園、高花小学校、小林コミュニティプラザ、松山下公園陸上競技場観覧席の大規模改修と、高齢者就労支援センター移転による旧永治小跡の改修工事の請負契約。

### ④令和3年度決算の認定 6件

コロナ関連で会計規模が膨らんでいるが、実質的に過去最大規模の決算と思われる一般会計と3特別会計、上下水道の企業会計の決算認定。一般会計では余剰財源が36億円に上り、お金の使いどころがなかったのか、想定以上に市税収入があったのか。市税は前年度比で5.5億円増加。

### ⑤協議 1件

千葉県市町村総合事務組合の構成団体を追加する協議。千葉県市町村総合事務組合とは、県内の公共団体の職員の退職金支給や公務災害補償、採用試験、公平委員会の事務などを共同処理している。

### ⑥報告 3件

継続費の精算報告のほか、決算で公表される財政健全度を示す指標の報告。指標の一つに算定の誤りがあり、過去2か年分の修正報告もされた。

### ⑦人事の同意 5件

固定資産審査評価委員1名、教育委員2名、人権擁護委員2名で、すべて再任の同意。

### ⑧請願 国への意見書提出 2件(採択)

「国における2023年度教育予算拡充に関する意見書」「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」



議案の詳細はHPでも報告しています。ぜひご覧ください。

## 高齢者の就労支援

今議会では「高齢者就労支援センター」に関する条例改正や工事契約の議案があり、設立当初からモヤモヤしたところのあるこの施設についてまとめてみます。

高齢者就労支援センターは、2003年に閉校した草深小学校の跡地活用で2005年に設置されました。設置時からずっとシルバー人材センターが指定管理者となっています。

議会議事録で振り返ると、当時、竹袋の総合福祉センターに間借りしていたシルバー人材センターを草深小跡に移転させる方針が先にあり、公益の組織とはいえ民間団体であるシルバー人材センターに公共施設を使わせる目的してと「高齢者就労支援センター」がつけられたように思います。

指定管理者は公募するのが原則ですが、シルバー人材センターは公募せずに選定され、一度は議会が否決しました。市は改めて公募し、「シルバー人材センター以外の応募者がなかった」として再提案し、承認された経緯があります。これまで指定期間が切れるごとに、公募してはシルバー人材センターが選定されており、高齢者の就労支援=シルバー人材センターの役目という状況が定着しています。

## 議会報告会のお知らせ

9月議会の報告と、自由な意見交換の場です。  
お気軽にご参加ください。

日曜日の午後です!

11月20日(日) 13:30~16:30

中央駅前地域交流館2号館3階 会議室3

印西市の高齢者の就労状況

年齢	総人数 (人)	働きたい人			働かない人 (人)	不明 (人)
		人数(人)	割合(%)	失業者(人)		
65～69歳	6,821	3,122	45.8	114	3,600	99
70～74歳	4,334	1,254	28.9	23	2,991	89
75～79歳	2,945	533	18.1	8	2,340	72
80～84歳	2,413	249	10.3	2	2,109	55
85歳以上	2,430	107	4.4	3	2,271	52

第8期印西市高齢者福祉計画より（数字の出典は2015年国勢調査）

## 就労支援に何が必要か考えて

印西市の高齢者の就労状況は上表のとおり。65～74歳では約4割の方が仕事を続けています。経済的な環境が厳しさを増す昨今は、もっと多くの高齢者が働き続けているかもしれません。高齢期の就労は、健康や家計状況、生きがい、自己有用感の相談など、総合的なものが望ましいと思いますが、印西市の高齢者就労支援政策はシルバー人材センターに丸投げしているように感じられます。印西市シルバー人材センターへの登録者は、働く高齢者の2%弱です（全国シルバー人材センター事業協会HPの2021年統計から）。今回の議案で、約1億円をかけて移転するのですから、シルバー人材センター以外の働き方を望む高齢者への対応にも力を入れていくべきだと思います。これからの高齢者が、どんな働き方を、どんな社会活動を望んでいるのか、市はしっかりと把握

し、支援体制を充実していく必要があります。

## 公共サービスに活躍の場を

印西市は市内で働く介護人材の資格取得に補助金を出していますが、年間数名しか補助を活用していません。例えば、そうした既存の制度を使って、高齢者に福祉や介護の資格取得を支

援し、「元気なお年寄りが要介護のお年寄りを支える」介護サービスや生活支援サービスで活躍してもらうのはどうでしょう。企業経営の経験を活かし、増えている保育園や障がい者施設の監査ができる人材を育てる、里山保全に一役買ってもらえるように技術習得を支援する等、各課で連携して、公共サービスで人材が不足している分野で活躍してもらえる仕組みをつくるのは難しいことではないと思います。

高齢者就労支援センター設置から15年超、議会ではいつも「指定管理者と連携して積極的に取り組む」などと答弁しながら、現実には取り組みが進んでいるようにはみえません。移転の工事が終わると、また指定管理者が選定されます。たぶん、公募を経てシルバー人材センターが指定管理者となると思いますが、これだけの費用をかける施設です。もっと市が工夫して、高齢者のニーズに幅広く対応できる施設にしてほしいと思います。

## 私の一般質問

# 何のための学校適正規模・適正配置？

印西市は特定の地区で人口が急増し、教室が足りなくなる過大規模校がある一方で、閉校を迫られる学校もあります。学校の規模を「適正」にしていくために、6年前に「学校適正規模・適正配置基本方針」を策定し、大規模校には次々と校舎を増築し、小規模校は統廃合が進められてきました。しかし、想定を超えて大規模化は進行し、令和5年度からは、当初は検討の上で採用されなかった「小規模特認校※1」が議会での請願採択をうけて導入されることになりました。当初の方針から迷走しているように感じます。メリット・デメリットで語らず、適正規模にした後の将来像をしっかりと描かないと、保護者や地域住民の理解や協力は、これからも得られないのではないかと思います。現在、第2次方針を策定中なので、これからの方策がどうなるのか質問しました。

※1 小規模校の存続を目的として、全市域を学区とする学校

### 私の質問

### 教育長の答弁

何のために学校の規模を「適正化」したいのか？

➡ 基本理念「だれもが輝き ともにはばたく」を実現するためだ。

子どもの成長には「ともにはばたける」集団が必要と考えるが、適正規模にする手法として統廃合が優先されてきた。第2次方針では「学区」や「学校選択制」は議論されるのか？

➡ 第2次方針では、中学校区ごとに通学区域の見直し、学校選択制の導入、義務教育学校を含めた学校の統合の3つの手法を検討していく。

校舎を次々増築するより、ゆとりある小規模校の施設をうまく活用できないのかと考える市民は多い。そうするには学校を選択する仕組みが必要となる。宇都宮市では、隣接する大規模校と小規模校をセットにして学区を広げ、どちらかを選択できる制度にしている。印西市でも研究してほしい。さらに隣接校間でスクールバスを運行してはどうか？

➡ スクールバスで適正規模化が図れるとは思わないが、通学が遠距離になる場合などでは、手法の一つとして検討はしていかなければならない。

一般質問の中継録画もぜひご覧下さい。

